

楽しくできる省エネのワークショップを展開

「TVの音量を変えたり、モニターの輝度を変えると消費電力はどう変わるかな？」

「LEDの省エネ効果は絶大だね。さすがノーベル賞！」

「実際に測るといろいろな発見があるね」

参加者のにぎやかな声が聞こえてくる。ここは下北沢駅から徒歩5分、緑に囲まれたカトリック世田谷教会の敷地内にある集会所。第2回「エネルギーシフト未来工房」が開かれた。

本日のテーマは、「家電製品をどこまで実験」。ドライヤーやトースター、電子レンジ、ホットプレート、扇風機、こたつなど、参加者が持ち寄った家電製品の消費電力量を、ワットアワーメーターを使って実際に測り、起動時と使用時の消費量の違いや、使



こたつと電気カーベットの消費電力の違いをチェック。データを集めて、「省エネカルテ」とする予定だ

用方法によって消費量がどう違うのかなどを比較検討した。表示される数値が事前の予想と異なるとその原因をみんなでディスカッション。カタログのスベックではわからない省エネのコツを発見したり、それぞれの家電製品の時間経過とともに変化する消費電力量を計測した。

実験終了後の結論は「見える化」の大切さ。実際の電力使用量を毎日の生活の中で意識することで、省エネ行動にはず

ミッションは地域の「快適エネルギー・コンシエルジュ」

みがつかず、「電力チェック」やワットアワーメーターを市民に貸し出して「エコ診断をしては？」などという意見も出た。

市民協同発電所スタート

このワークショップを主催するの



分電盤にセンサーを設置することで電流の変化がすぐにモニターに表示されるタイプの製品をチェック



2013年6月22日に行われた、「カリタス下北沢ソーラー市民協同発電所」点灯式のひとコマ

(左から)メンバーの大島崇さん、井上大輔さん、山木きょう子さん、後藤絹さん、浅輪剛博さん。毎週定例会を開き、まちづくりも含めてメンバーで議論している。



第1回「エネルギーシフト未来工房」ではよしず、すだれ、遮熱シート、UVカットシートを使い、遮熱効果を実験



「夏休み親子教室」では、子どもたちが表面温度計でアスファルトと芝生の温度などを測った

援のマルチエと手作りソーラーパネルの実験をしていたところ、関心をもった信徒さんを中心に市民協同発電所をつくるという声があがり、約100名の賛同者を得て、2013年6月、同教会の信徒会館の屋根に10kWの「カリタス下北沢ソーラー市民協同発電所」を設置した。

共同代表の山木きょう子さんと浅輪剛博さんは語る。

「エネルギーシフト未来工房」の会場入口の看板。次の世代にどんな社会を引き継ぎたいか。その答えを私たち一人ひとりが創っていききたいという思いが込められている



助成団体レポート 行ってみました! 省エネワークショップ



東京都・小金井市にあるエクセルギーハウスへの見学ツアー。建築家の黒岩哲彦さんのレクチャーは世田谷教会でも行った

より多くの市民に省エネの輪を広げたい

これからの課題は、いかに多くの市民を巻き込んでいくか。そのためにも誰もが気軽に参加できる生活に密着した企画や、親子向けのエネルギー教室、行政と協働した研修やイベン

トなどを計画 중이다。また、世田谷市民発電所2号機の出資者も募集中。「先進事例の見学やワークショップなどの活動を通じて蓄積した知見をもとに、地域の「快適エネルギー・コンシエルジュ」の役割を果たしていきたいですね」

NPO法人 世田谷みんなのエネルギー
HP <http://setagaya-energy.jimdo.com/>
Facebook <https://www.facebook.com/SetagayaMinnaNoEnergy>

2013年6月、東京・下北沢のカトリック世田谷教会に市民出資 によるソーラー市民協同発電所が設置され、発電を開始した。多くの市民の参加を得てエネルギーの地産地消を進めるとともに、エネルギーの効率利用のノウハウを広げる活動を展開している。

地域からのエネルギーシフトを目指す

がまんの省エネから快 適なエネルギー生活へ

市民協同発電所 発電実績

設置した太陽光発電パネルは10.01kW。2013年6月18日から2014年6月17日までの1年間の発電量は11,595kWhで予想発電量9,000kWhを上回った

